

経済学部として行った組織的活動

1. 和歌山地域経済研究機構

和歌山地域経済研究機構は、経済学部、観光学部、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所と共に研究・政策提言活動を行っている。2024年度の本学での役員、和歌山地域経済研究機構の理事、活動は次のとおりである。また、Webサイトの運営等を提供し、事務局業務について貢献している。

1.1. 役員

理事長：金川めぐみ教授

理事：辻本勝久教授

1.2. 和歌山地域経済研究機構の理事会

第1回理事会

日時：2024年4月22日

場所：和歌山大学経済学部第二会議室

- 議題：1. 令和5年度事業報告並びに収支決算報告について
2. 令和6年度収支予算（案）について
3. 令和6年度調査研究助成事業（案）について
4. 令和6年度機関誌『地域経済』第28号の作成について
5. その他

第2回理事会（メール審議）

日時：2024年6月14日 - 6月25日メール会議

議題：令和6年度機構助成研究の審査・助成決定

1.3. 刊行物

機関誌：地域経済 No. 28（2025年3月発行予定）

2. 柑芦会

経済学部の同窓会は、和歌山大学経済学部の前身である和歌山高等商業学校の第1回卒業式にあたり1926年3月に結成され、その後1929年に当時の岡本校長によって「柑芦会」と命名された。

柑芦会は、会員相互の親睦を図り、母校と会員の関係を緊密にし、その隆盛と発展を助けることを目的として様々な活動を展開している。その一つとして大阪支部では年に数回程度「人生塾」を開催して

おり、経済学部教員がその講師を務めることがある。

2.1. 「人生塾」講師

2024年8月19日(月) 藤木剛康准教授

『貿易自由化から経済安全保障へ～アメリカ対外経済政策の展開』

3. 経済総合研究所

経済総合研究所は、2018年(平成30年)4月に、「経済研究所」と「経済計測研究所」の事業を継承しつつ更なる機能強化を図るために設立された。和歌山大学経済学部・大学院経済学研究科における教員の研究及び学生の学修・研究に関わる諸活動を推進し、かつ、その環境を整備することを目的としており、次の様な事業を行っている。

- (1) 経済学, 経営学, 会計学, 情報学, 法学などの各学問領域に関する研究及び調査及びその支援
- (2) (1)に関する成果の発表
- (3) (2)に関わる業績の収集, 整理, 保存及び目録の作成
- (4) 講演会及び講習会の開催
- (5) (1)に掲げる各学問領域に関する図書その他必要な資料の収集, 整理及び保存
- (6) 情報機器及びソフトウェア(データベースを含む)の管理及び整備
- (7) 学生の学修・研究の支援

3.1. 講演会

『長距離フェリー概論～フェリーの社会的役割』

日時: 2023年11月2日(木) 13:30～15:00

講師: 山本 哲也 氏(株式会社名門大洋フェリー 常務執行役員旅客本部長)

会場: オンライン または 西3号館 3階 第2会議室

『競争の役割と公正取引委員会の活動～デジタル分野における取組と不当表示規制～』

日時: 2023年11月10日(金) 10:50～12:00

講師: 原 一弘 氏(公正取引委員会 近畿中国四国事務所長)

会場: 西2号館 E101

『Winning Journal Editors' Hearts and Minds: The Dos and Don'ts』

日時: 2024年6月4日(火) 14:50～16:20

講師: Hooi Carol Lai-Wan 氏(立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授)

会場: 西3号館 3階 第2会議室

『経済学から見たレジリエンスの諸相：自然災害と経済危機のケース』

日時：2024年7月4日（木）13:10～14:40

講師：齊藤 誠 氏（名古屋大学大学院経済学研究科教授）

会場：オンライン または 西2号館 E105

『Energy Resources Management and Sustainable Environment: Lessons from Natural Disasters in Japan and Türkiye』

日時：2024年7月10日（水）14:50～16:20

講師：Ayfer Gedikli 氏（Düzce University Professor & Coordinator of International Office）

会場：西3号館 3階 第2会議室

4. 研究推進オフィス

研究推進オフィスでは、科研費等の学外研究資金の導入・運用、学内研究資金の効率的運用、海外客員研究員奨学金制度の活用、国際学術共同研究事業の企画・運営その他、研究に関わる様々な事項に関する支援体制を整え、研究者の自由な発想に基づく創造的研究の進展を後押ししている。

研究推進オフィスにおいて、研究・社会貢献の振興や活性化のために、本学部研究者の学術論文や研究報告書、社会活動などを当オフィス HP 上に公開することで、本学部研究者の研究活動成果への学内外からのオープン・アクセスが可能となるようにしている。

4.1. 社会・地域連携活動のとりまとめと情報発信

昨年度の『地域・国際貢献活動一覧』冊子をもとに、学内諸組織での経済学部教員の活動、経済学部のOB・OG組織である柑芦会などの学外組織との連携活動など、社会貢献活動の実態把握につとめた。

情報発信の面では、昨年度の冊子刊行以降の取り組みについて、本冊子の編集・刊行を行い、広く学内外に情報発信している。

4.2. 地域社会のニーズに応える窓口

研究推進オフィスでは、地域社会から寄せられた各種依頼のコーディネートに取り組むとともに、経済学部のWebサイト内に研究推進オフィスのページを作成し、学外への情報発信と窓口機能の整備・充実を図っている。

4.3. 学術交流等の国際連携のサポート

海外客員研究員奨学金制度により、1名の研究者を客員研究員として招へいた。

客員研究員：Prof. Dr. Ayfer Gedikli

受入期間：2024年6月29日～7月18日

受入教員：マグレビ・ナビル教授

研究テーマ：金融と持続可能なエネルギー市場 Finance and Sustainable Energy Markets

4.4. 研究推進オフィス委員会の運営

研究推進オフィスの組織活動と運営方針を議論する機関として、研究推進オフィス委員会を運営している。2024年度は、下記3名のメンバーで構成している。

研究推進オフィス委員会 2024年度メンバー

金澤孝彰教授（オフィス長）

齊藤久美子教授

大澤健教授

5. 学内組織への協力

5.1. 南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライトは、紀南地域の発展と創造に貢献する和歌山大学の拠点として、高等教育や地域と連携した事業の展開など知の拠点として活動している。

(1) 大学院授業

[2023年度後期]

協同組合論	岸上光克教授
経済立地論	藤田和史准教授

[2024年度前期]

開発経済学	金澤孝彰教授
産業組織論	田村正興准教授

(2) 学部開放科目

[2023年度後期]

地域観光戦略論 A	藤田和史准教授、岸上光克教授
郷土の食文化から考える食の危機	岸上光克教授

[2023年度通年]

地域づくりの理論と実践 D	岸上光克教授
---------------	--------

[2024年度前期]

該当なし

5.2. 岸和田サテライト

岸和田サテライトは、大阪府岸和田市をはじめとする泉州・大阪南部地域の発展と創造に貢献する和歌山大学の拠点として、高等教育や地域と連携した事業を展開している。

(1) 大学院授業

[2023年度後期]

日本経済史	長廣利崇教授
エリアマネジメント	上野美咲講師

[2024年度前期]

商法	清弘正子准教授
マーケティング論	柳到亨教授

(2) 学部開放科目

[2023年度後期]

該当なし

[2024年度前期]

大阪の農業・水産業の将来を考える	岸上光克教授
------------------	--------

5.3. 紀州経済史文化史研究所

紀州経済史文化史研究所は、紀州の歴史、文化・自然についての研究、資料収集、成果の公表、展示を通して、地域社会の発展に寄与することを活動目的としている。

[所長]

長廣利崇教授

[運営委員]

藤田和史准教授

[所員]

芦田昌也教授

岸上光克教授

辻本勝久教授

本庄麻美子准教授

上野美咲准教授

5.4. 学術情報センター（図書館）

図書館内には約70万冊の蔵書を整備するとともに、ラーニング・コモンズ、セミナールーム、グループ学習室等を設け、様々な学習に対応する環境を整えている。

[館長]

森口佳樹教授

5.5. データ・インテリジェンス教育研究部門

データ・インテリジェンス教育研究部門は、数理・データサイエンス教育を始めとしたビッグデータ解析やIoTシステム構築技術、人工知能(AI)技術など「超スマート社会」Society5.0に必要とされる基盤技術に関する教育研究を推進している。

[教育カリキュラム検討部会委員]

芦田昌也教授

5.6. 食農総合研究教育センター

食農総合研究教育センターは、和歌山圏域を中心に、食と農林水産業の分野にかかわる研究活動を通じて、学術研究の発展と地域社会との連携や地域貢献機能の強化に資することを目的としている。

[センター長]

岸上光克教授

5.7. 災害科学・レジリエンス共創センター

災害科学・レジリエンス共創センターは、自然災害とその被害軽減に関する研究に取り組んでいる。そして、その研究成果を地域社会に還元・実装し、減災活動にかかわる人材の養成および地域連携を通じた地域防災力の向上に貢献することを目的としている。

[プロジェクト員]

藤永博教授

5.8. キャンパスライフ・健康支援センター

キャンパスライフ・健康支援センターには、健康支援部門とキャンパスライフ支援部門があり、キャンパスライフ支援部門には障害学生支援室と学生相談室がある。健康支援部門は保健センターの業務を引き継ぎ、学生・教職員の健康状態を把握して、疾病の予防に対する保健指導と健康に関する情報提供ならびに啓蒙活動、教職員の相談業務を行なっている。障害学生支援室は障がい学生支援部門の業務を

引き継ぎ、障害のある学生とその保護者、担当教職員からの相談に専門スタッフが応じ、修学のための適切な環境づくりに努めている。学生相談室は、新設の組織であり、学生の困りごと、とくにメンタル面を中心に、臨床心理士（カウンセラー）が相談業務を行っている。

キャンパスライフ・健康支援センターでは、これらの部門、室が有機的に繋がり、協力し合って、学生・教職員の健康およびキャンパスライフを総合的にサポートしている。

[センター員]

岡田真理子准教授

5.9. アントレプレナーシップデザインセンター

アントレプレナーシップデザインセンターは、和歌山圏域における新しい産業や文化を生み出すことができる人材を、地域と連携し育成することを目的としている。地域から頼られる存在となるために、学生に対して、地域企業などとの協働を誘発し、自己満足にとどまらない具体的な（学術）成果を基に、和歌山の価値創造に貢献する。

[センター員]

本庄麻美子准教授